

所 報

No. 37

佐賀県教育センター

佐賀県佐賀郡大和町川上

TEL 0952-62-5211

も く じ

○ 自らを磨くということ.....	1
○ データーに見る佐賀県教育センター(その2).....	2・3・4・5
○ 公開講座の概要 「望ましい教師像」——森 隆夫先生——.....	6・7
○ 指導のチェックポイント——中学英語・小学社会——.....	8・9・10
○ 長期研修生紹介.....	11
○ 私のすすめる一冊の本.....	12
○ 寄贈図書紹介.....	12

自らを磨くということ

佐賀県教育センター研修二課長 伊 東 釧二郎



大村はま先生が、はじめて教師として赴任することが決まったとき、贈られた言葉が「十年間は生徒ですよ。」という言葉であったと言う。恩師、安井哲先生(元昭和女子大学長)の言葉なのだそうで、「十年間は先生なんていうもんじゃない。」と新任教師の心がまえとして、教え子に贈られた言葉なのだそうだ。

ことばそのままに受けとめると「勉強することを忘れてはいけませんよ。」ということなのであろうが、この言葉の裏には「謙虚であれ」との意味合いが含まれているように思われる。

「謙虚であれ」ということは、先生としてのおごりを問題としているだけではなく、自分は生徒に対して何様なのか、何が自分にはしえるのか、という「畏れ」の感情と受けとってよいであろうか。ことばを換えていうならば「先に生まれた私が先生になったんで、子どもの方が私より劣っているなんていうことではない」という認識である。「劣ってなんかいないんで年齢が少ないだけなんだ。子どもはほとんど全部教師よりずっとすぐれていると思って間違いない。」といった子どもの可能性に対する「畏れ」とでもいったらよいであろうか。

教師の陥りやすい弱点としてよく挙げられることの一つに、「教師になった途端から一人前扱いをされるのでいい気になりやすい。」というのがある。しかも「不十分なことをしていても十分なことをしているような錯覚を生む隙間がある。」としたら、その独善を戒めるものは

自らを高めようとする「謙虚さ」をおいてほかにはない。自らを高めようとする者のみが、子どもの前に立つ資格があるのだといわれる、それである。

大村先生は、その著書「国語教室の実際」の中で、「いろんなかたの意見を謙虚に聞いていかねばなりません、最も大きな師は生徒ではないかと思うのです。生徒をほんとうに見ていれば自分がやっていることのどこが足りないかということ、何がどれだけ成功しているのかということがわかってくる。」と書いておられる。

まことに、よく「謙虚さ」の意味合いを説きつくしていると思われるが、「ほんとうに見ることのできる目」は、自分を磨くことからしか生まれてこない。つまり、勉強することを忘れてはならないのである。

大村先生は、子どもへの愛を何で表現するかとの問いかけに、「結局すばらしい技術指導をもって表すほかにはちょっと表し方がない。」と答えておられる。そのための自己修練に身を削って努力をつづけられた方のような。

その厳しさは、とうていだれもがいきつくことのできる域のものではなさそうだが、せめて教師としての謙虚さを失うまいとすれば、仮に「十年間たったって、先生なんていうもんじゃない。」と言われてもしたときに、それを、どう受けとめ、実践の中でどう反発していくかが大きな境い目のように思われて、自らを問い直すところである。

データに見る

佐賀県教育センター (その2)

教育相談・教育資料・情報処理教育・研究調査

佐賀県教育センターでは、開所5年の経過を機に、事業の概要をデータにまとめてまいりました。そして、その一端を本紙に紹介し、諸先生方にご批正を頂いております。

前号(NO 3 6)に引き続き、今回は教育相談、教育資料、情報処理教育、研究調査関係のデータをお示しいたします。よろしくご検分ください。

1. 教育相談

(1) 受理件数 及び 相談延人数

年度	54年度	55年度	56年度	57年度	58年度	計	年平均
相談延人数	158	185	197	155	152	847	169.4
父	216	301	309	230	166	1,222	244.4
母	925	1,175	874	641	824	4,439	887.8
本人	827	1,132	1,053	692	791	4,495	899.0
担任・他	133	113	70	49	33	398	79.6
総計	2,101	2,721	2,306	1,612	1,814	10,554	2,100.8

(2) 校種別受理件数の割合

昭和	就学前	小学校	中学校	高校
⑤4	15.2%	34.8	22.8	27.2
⑤5	12.4	37.3	18.4	31.9
⑤6	9.0	31.0	28.9	31.0
⑤7	5.2	27.7	41.9	25.2
⑤8	6.6	24.3	39.5	29.6

(3) 主訴別相談延人数

年度	54	55	56	57	58	計	相対比
主訴							%
神経症	71	107	146	47	4	375	3.6
神経性 習癖	29	172	109	74	133	517	4.9
心身症					4	4	0.0
学業問題	18	180	78	11	3	290	2.7
登校拒否	716	1,019	849	864	1,056	4,504	42.7
計	2,101	2,721	2,306	1,612	1,814	10,554	

年度	54	55	56	57	58	計	相対比
主訴							%
かん黙・孤立	55	76	45	86	102	364	3.4
異常行動	1001	790	451	229	316	2,787	26.4
非行	207	375	471	301	161	1,515	14.4
その他	4	2	157		35	198	1.8
計	2,101	2,721	2,306	1,612	1,814	10,554	

2. 教育資料

(1) 教育に関する図書・資料の収集状況

種 類	54年度	55年度	56年度	57年度	58年度
教育図書数	4,203冊	4,939冊	6,153冊	6,655冊	7,102冊
研究紀要数	8,748冊	9,317冊	9,720冊	10,197冊	10,595冊

(2) 教育に関する図書・資料の活用状況 ①入室者数

年度	54年度	55年度	56年度	57年度	58年度	計
利用	2,390	1,844	1,922	2,073	1,903	10,132

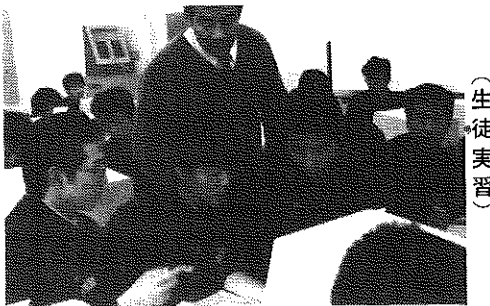
(3) 教育に関する歴史的資料の所在調査

年 度	調 査 学 校
昭和55年度	大和町立川上小学校 有明町立有明東小学校 鹿島市立鹿島小学校 有田町立有田小学校 武雄市立若木小学校 〃 橘 小学校 県立佐賀西高等学校 〃 小城高等学校 〃 唐津東高等学校 ・砥川地区民俗資料館 ・有明町公民館
昭和56年度	鎮西町立名護屋小学校 伊万里市立牧島小学校 武雄市立西川登小学校 塩田町立塩田小学校 白石町立須古小学校
昭和57年度	神埼町立仁比山小学校 佐賀市立芙蓉小学校 川副町立中川副小学校 伊万里市立伊万里小学校 〃 大坪小学校
昭和58年度	佐賀市立赤松小学校 大和町立松梅小学校 小城町立桜岡小学校 伊万里市立二里小学校 鹿島市立能古見小学校

3. 情報処理教育

② 生徒実習

区 分		年 度	57	58	計
商業系 高校	ク ラ ス 数	COBOL		17	17
		FORTRAN		26	26
		計		43	43
		生徒延数		1,820	1,820
工業系 高校	ク ラ ス 数	FORTRAN	2	23	25
		NC工作機械		34	34
		計	2	57	59
		生徒延数	80	2,043	2,123
合計		ク ラ ス 数	2	100	102
		生徒延数	80	3,863	3,943



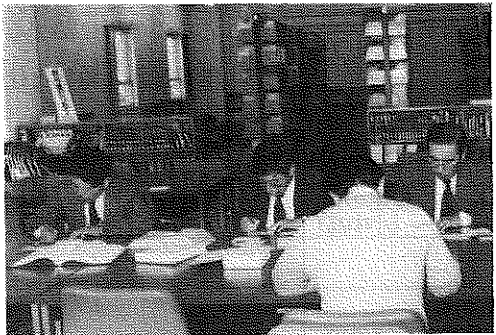
(生徒実習)

4. 研究調査

(1) 研究実践・研究記録論文募集

教科・領域別応募状況 () 内は、入選数

	小学	中学	高校	計
国 語	5(1)	2		7(1)
社 会	5	1	3(3)	9(3)
算数・数学	7(2)	4(1)	2(2)	13(5)
理 科	5(2)	1		6(2)
英 語		2(1)	1	3(1)
音 楽	5(1)	1		(1)
図工・美術	6(2)	1	1	8(2)
学級経営	3(1)	6(2)	1	10(3)
特殊教育	1		7(3)	8(3)
ゆとり教育	3	1	1	5
生徒指導		4		4
そ の 他	6(2)	9(2)	1	16(4)
計	46(11)	32(6)	17(8)	95(25)



(図書閲覧風景)

(2) 研究紀要 年度別、教科領域別研究主題名

※印は、紀要に掲載せず

	昭和54年度（1・2・3集）	昭和55年度（4・5集）	昭和56年度（6集）
教育基礎調査		・豊かな人間性を旨とする「教育課題」の意識の調査 (小中高)	・学習の目的意識と学習態度とのかわりに関する調査 (小中高)
国語	・「表現」に生きる理解指導のあり方 (小) ・読みのたしかさを求める国語指導法の研究 (中) ・文章表現（作文・小論文）の能力を高める指導 (高)		・授業を支える国語の教材解釈 ～読みの教材をとおして～ (小中)
社会	・世界地理先習にともなう地理的分野の内容構成とその指導法 (中) ・学習意欲の向上を目指す高校社会科地理指導の工夫 (高)	・世界地理先習にともなう地理的分野の内容構成とその指導法 (中)	・歴史学習における一人ひとりの学習意欲を高める指導法の研究 ～郷土資料の取扱いを中心として～ (小中)
算数・数学	・コミュニケーションによる授業分析の研究 (小) ・計算力の診断—治療に関する手法と実践 (中) ・高校数学科における学習評価に関する実態とその問題点 (高)	・個の学習状態に応じた授業システムの開発 (小中)	※ 個の学習状態に応じた授業システムの開発 (小中)
英語	・中学校英語における聴解訓練のための教材 (中) ・高校一年生の英語における聴解力及び作文能力に関する研究 (高)	・生徒に意欲を持たせる英語の授業の進め方 (高)	・個の学習状態に応じた英語指導のあり方 ～新教材の導入と場面設定～ (中)
理科			
教科共同研究		※学習到達状況に関する研究 (高一国社数理英) ・学習意欲を高める要因の分析 (小中—国 中—社・英)	※学習到達状況に関する研究 (高一国社数理英)
道徳	・小学校における道徳的实践力を培う方策に関する研究 (小)		・道徳的实践意欲を高めるための指導と評価 (小中)
へき地教育	・へき地少人数学級（複式）における学習意欲を高める指導の実践的研究 (小)	・へき地少人数学級（複式）における論理的・客観的な考方を促す指導の実践的研究 (小)	・複式学級における効果的な読解指導法 ～基礎的研究を中心として～ (小)
学校経営		・「ゆとりあるしかも充実した教育」に関する研究(小)	
学級指導			・自ら考え実践する児童生徒を育てる学級指導の研究 (小中)
教育工学	・ビデオ教材の制作とその活用に関する研究 ◎大和町の国分寺・国分尼寺跡を訪ねて (小社) ◎方程式の解き方を考えよう (中数)	・ビデオ教材の制作とその活用に関する研究 ◎郷土の開発につくした人々 (小社)	・電気に関する映像教材の制作とその分析に関する研究 ◎中学校理科「電気と仕事」 (中理)
教育相談	※ 児童生徒の問題行動の要因分析及び指導法の実践的研究 (小中高)	・児童生徒の問題行動の要因分析及び指導法の実践的研究 ～学校現場の対応を中心として～ (小中高)	・学校教育相談の理論と実践に関する研究 ～教育相談ハンドブック上～ (小中高)
特殊教育			
生涯教育	※ ライフサイクルに応じた教職員の研修に関する基礎的研究		

昭和57年度（7集）	昭和58年度（8集）
・学校場面における児童生徒の意欲的な行動に関する調査 (小中高)	・児童生徒の行動とその意識に関する調査 (小中)
・「書く生活」を豊かにする指導の工夫 (小中)	・「書く生活」を豊かにする指導の工夫 (小中)
・歴史学習における一人ひとりの学習意欲を高める指導法の研究 ～郷土資料の取扱いを中心として～ (小中)	・地理的学習における読図能力を高める指導のあり方 ～地図帳を生かした指導を中心に～ (小中)
・個の学習状態に応じた授業システムの開発 (小中)	・個の学習を成立させる学習システムの工夫 ～一斉・グループ・個別学習システムについて～ (小中)
・運用力を高める英語指導のあり方 ～言語材料と場面～ (中)	※ 読解力をつけるリーディング指導のあり方 ～第3学年について～ (中)
・新教材による物理実験の開発と指導法の調査研究 (小中高) ・重金属イオンを含む実験廃液の簡易処理法の工夫 (小中高) ・教育センター周辺における野外観察実習地の設定 (小中高) ・県内各地の自然観察ルートの設定—地学 (小中高)	・新教材による物理実験の開発と指導法の調査研究 (小中高) ・重金属イオンを含む実験廃液の簡易処理法の工夫 (小中高) ※教育センター周辺における野外観察実習地の設定 (小中高) ※県内各地の自然観察ルートの設定—地学 (小中高)
・高等学校新教育課程の実践と課題 ～高校1年の学習内容と指導計画～ (高一国社数理英)	※高等学校新教育課程の実践と課題 ～高校1年の学習内容と指導計画～ (高一国社数理英)
・道徳的实践力を深めるための指導 (小中)	
・複式学級における効果的な読解指導法 ～同単元、同内容指導の実践～ (小)	
・自ら考え実践する児童生徒を育てる学級指導の研究 ～実践的研究を中心として～ (小中)	※学校教育目標の具現化をめざした学年・学級（ホームルーム）経営に関する研究 (小中高)
・学習効果を高めるビデオ教材の制作 ◎郷土学習 (中社)	・学習効果を高めるビデオ教材の制作 ◎力とエネルギー (高理)
・学校教育相談の理論と実践に関する研究 ～教育相談ハンドブック 下～ (小中高)	
	※特殊学級児童生徒の問題行動の理解と指導法に関する研究 (小中)

公開講座概要

昭和59年7月31日

望ましい教師像

お茶の水女子大学教授 森 隆夫 先生



【望ましい教師像の要因】

本日の演題は、「望ましい教師像」であるがそれを語るには、望ましい子供像を考えてみればよい。

望ましい子供というのは、知的な面での勉強ができて、あいさつもよくできる人間性豊かなものを持ち合わせていることであろう。従って望ましい教師というのは、教え方も上手で教材研究もよくやり、あいさつもきちんとできる先生ということになるだろう。

アメリカの心理学者マズローは、りっぱな人の定義をした。彼は、過去における具体的なりっぱな人として、シュバイツァーやリンカーンなどを挙げた。そして、それらの人々の共通している特徴は、判断が公正であるとか、創造性が豊かであるとか、奉仕性があるとかいったようなものと述べている。望ましい教師像を考えた場合にもそういうことを兼ね備えておく必要があると考える。

【望ましい教師の具体例】

帰納法的に望ましい教師像を考えてみたい。初めに各論から入り総論へとつなぎたい。各論の一例として、国語教育の実践家、大村はま先生についてふれてみよう。先生は、ある本の中に、「教師は渡し守」だと言っておられる。「渡し守」とはどんなことかと言うと、例えば大村はま先生は、中学校の先生でしたから、中学校の川岸から向こうの高校の川岸へ生徒を渡せばよいと考えておられる。ところが、高校生になったかつての教え子たちが、自分の所へふり向いて（訪ねて来て）困るとおっしゃるのである。なぜかと言うと前に送り出した子供たちが来ると現在教えている中学生にじゃまになるとのことだそうである。それぐらい、生徒たちは、大村先生が好きであり尊敬しているのである。

好かれることはあっても尊敬されるということとは簡単にはいかないことであるが、この例のように先生が好かれて尊敬されていれば、子供たちはだまっていなくてもついてくることになる。そのような意味あいにおいて、大村はま先

生の「教師渡し守説」というものに注目してみたい。

もう一例、グスタフ＝ホス先生について述べてみたい。ホス先生は、ドイツ生まれで日本に長くいた人である。栄校学園の校長もされた人である。先生は、先生と生徒ということばかり先生と生徒は「生」という字で結ばれていることに気付かれたのである。「生」は、人生、つまり先生と生徒は、「人生」で結ばれている。このことは、人間性教育の大切さを指摘されているということになる。

【教育の必要条件と十分条件】

私たちは、「教育」の語源として、能力を引き出すということは教わって知っているのであるが、「教育」の語源にもう一つ、ヘブライ語で、「ヒヌーク」ということばがある。これは奉仕という意味がある。すなわち教師は、奉仕性のある人でないと務まらないということである。先ほどの教育の語源から言えることは、教師にはすべきことが二つあるということである。それは、人間関係ということと、教科指導の二つである。

ここで肝要なことは、りっぱな人間性を育てるために国語や数学などを教えるのであって、ただ単に教科指導が優先すべきではないということである。

教師の使命の第一は、人間担任機能であり、第二が教科担任機能である。人間担任機能は、教師の必要条件であって、教科担任機能は、十分条件であると考えられる。

【HS理論からみた教師のタイプ】

教師のタイプには4つの型がある。「H」を人間担任機能、「S」を教科担任機能とし、大文字は高い機能、小文字を低い機能と考える。そうすると「HS」は望ましい教師像ということになる。H機能にはカリキュラムがなく教師自身であり、S機能には学習指導要領や教科書といった従来の教育研究としてのカリキュラムがある。

教師はもっと研究と修養に励むべきではない

か。H機能の研究、つまり人間的な深まりを持つことが大切なのではなかろうか。人格を高めるべきだと考える。具体的に1つの例を示すと自分の教え子からノーベル物理学賞を3名も出した旧制3高の吉川先生について触れてみたい。3名とは湯川・朝永・江崎の物理学者である。吉川氏の人格について教え子たちは3点を指摘している。①優秀というよりも温和な人。②教材研究が熱心でよくプリントを配った。そのことが教わる側によくわかった。③おとし話を聞くようにおもしろく話された。それで生徒はみんな物理が好きになった。——というのである。このことから、教師は「好きにさせる技術」が必要であることがわかる。

【H機能を高めるチェックポイント】

- ① 子どもの好きな人間であるか。
算数を教えている、社会科を教えているというのではなくて、人間に教えているということに重点を置くべきで人間嫌いな人は教師は務まらない。
- ② 短気かどうか。
短気な人は教師は務まらないと思う。自分より未熟な者に短気をおこすとはどういうことであろうか。しかるのも感情でなく理性でしかるべきである。ユダヤのことわざ「子どもははずかしがるな、教師は短気をおこすな」というのがある。円満とは人間が熟するということである。
- ③ 奉仕性があるかどうか。
時計が気にならないことである。憲法や教育基本法、教育公務員特例法にもあるように「すべて公務員は全体の奉仕者である」ことを忘れてはいけない。教師は授業以外、勤務時間外に12分間子どもたちと会話をする時間を持ってほしい。1人18秒、40名で12分である。「〇〇くん、顔色が悪いね。」と顔に手

を当てる。子どもは自分のことを心配してくれているんだと思う。このお互いに思い合うことが大事なのであって、人間教育は体温教育である。中学高校ではその18秒がどこかへ行ってしまっている。

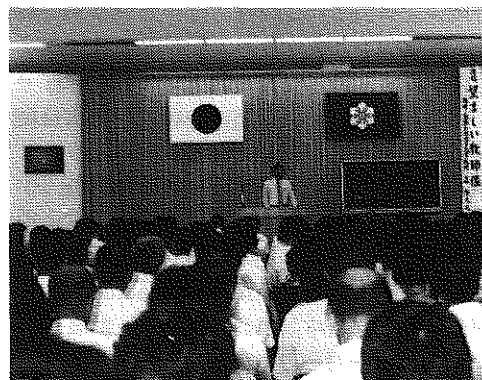
- ④ 笑い、機知に富んだ明るい人であるか。
ユダヤのことわざ「生物の中で人間だけが笑う。賢い人ほどよく笑う」というのがあるが、軽いユーモアや冗談が言える教師であるべきで、それのない人は知識や連想力がないうということになる。
- ⑤ 信念を持つということ。
私が校長のころ、ある年輩の先生が「関節リュウマチになって子どもと一緒に走れなくなったから担任をはずしてくれ」と言ってきた。走れなくともよいから担任をしてくれと頼んでも「自分の信念だからだめだ」と言う。信念とは「理屈を越えた強い心」という意味だそうで高次元のりっぱなことをこの先生に学んだのであった。
- ⑥ 健康であること。
すべて健康がもとになる。教師が、子どもや父兄、まわりの人たちから好かれ尊敬されるのは、教師という仕事が重労働であり、健康でなければならないことが広く認識されているからだ。

最後に、どうしたらH機能が高まるか。具体的には昔の名将が部下から学んだと言われるように、教える立場の人が学ぶ、子どもから学ぶ教師にならなければならない。直接経験から、だれからでも学ばねばならない。

プロはあたり前のことの上にさらに何かをやるべきである。これが自分・個性を伸ばすことであり、それは自信を持つことである。子どもの個性を伸ばすということは自信をもったものを1つ持たせるということである。教師もプロとして自信をもって言えるものを持たなければならない。そのためにはまず「自分を知る」、つまり自分の長所は伸ばし短所はおさえることだ。長所はアクセル、短所はブレーキ。これが「人生の名ドライバー」であると思う。

望ましい教師とは、「人生の名ドライバー」たるべきであろう。

(文責 兵働)



公開講座風景

指導のチェックポイント

— 中学校英語 —

最近の英語学習指導の方向について

英語の週3時間授業の実施とともに、発想の転換が叫ばれ、学校現場においては、英語学習指導にいろいろの改善・工夫がなされて、基礎学力の向上・充実が図られている。にもかかわらず、基本的な学習習慣が身につかず、英語ぎらいの生徒が1年時から増え、学力差が大きくなり、意欲をもって英語学習に取り組む生徒が少なくなってきたという声が広がっている。

このような困難な状況における英語学習指導の参考として、最近の新しい英語学習指導のいくつかを取りあげてみたい。

1. 「母国語は排すべきである。」から「母国語の効果的利用を考えるべきである。」への転換
イギリスの教育学者 C. J. Dodson が提唱したバイリンガル・メソッド (The Bilingual Method) は、外国語教授に母国語を積極的に利用して、①意味の理解を確実にし、②導入の効率化をはかり、③運用力の向上をめざそうとするものである。授業過程の中のどこで、どのような方法で母国語を使うかがキーポイントになる。

当センターにおける今年度の中学校英語 (指導法) 講座 (10/3~4) で、福岡教育大学の吉田一衛教授 (東書 NEW HORIZON の編者) が大和中学校の1年生を対象にして、この指導法を使った模範授業をされたので、その時の資料から要約してこの指導法を紹介したい。

この指導法では、一つの場面——1~2の練習すべき基本文を中心に構成——の口頭による学習過程を8つの Step に分け、各 Step の練習は、最終の段階ではすべての基本文を使って自由会話ができることを意図している。

(Step1) Initiation of Basic FL Sentences (模倣練習)

教師を模倣することによって基本文の言い方を学ぶ。まず、言おうとする文の意味を日本語で与え、文構造を理解させる。場面を示す絵等を掲示し、英文は板書する。モデルを何回も聞かせて、コーラスで模倣させ、次いで、個々の生徒を指して (名前は言わない) 模倣させる。

(Step2) Interpretation of Basic Sentences (通訳練習 I)

口頭で日本語の刺激 (又は絵) を与え、英語で反応させる。できるだけ速いテンポで行う。

(Step3) Substitution and Expansion of FL Sentences (代入・拡大練習)

絵等を使って日本語の cue を次々に与え、基本文の要素や語いを置き換えて新しい場面を作らせる。次に基本文や代入した文をつないで文の長さを拡大していく。

(Step4) Independent Speaking of FL Sentences (自由発話練習)

「自由発話」とは、教師から日本語でも、英語でも口頭の刺激を受けないということ。絵等を示して既習文を思い出させ、それらをもとにして新しい場面の説明を英文で行わせる。

(Step5) Reverse Interpretation (通訳練習 II) (省略可能)

英語を言って、日本語で反応させる。この指導法で生徒が日本語を発するのはここだけ。

(Step6) Interpretation of Questions (疑問文整理練習)

用いるべき疑問文の構造を板書し、代入表を使ってできるだけ多くの疑問代名詞 (練習の前に日本語で意味を与える) の練習をする。

(Step1、Step2 の要領で行う。)

(Step7) FL Questions and Answers (問答練習)

T—P、P—P などあらゆる方法で Q—A drill を行い、各 Step で出た英文を言わせる。応答は完全文で。(省略形の応答は Step8 で) 最も重要な口頭活動である。

(Step8) Normal FL Conversation (会話練習)

いろいろの題材について、英語で流暢に、正確に会話を行わせる。Communication 活動。(東京書籍「東書中学英語 No. 202」参照)

2. 日英語の一对一の対応からの脱皮

県内中学3年生206名について調査した結果

(昭和57年度当センター紀要第7集)によると「これは(ポチ)です」を英語に直す時、This is~の文型を使った生徒は98%であるのに対して、「ここが(私の部屋)です」にこの文型を使うことができた生徒は35%であり、「あなたは何歳ですか」では66%の生徒が How old~? の文型を使っているのに対して、「この家は建ってからどのくらいになるか」にこの文型を応用できた生徒はわずか10%に過ぎなかった。これは、「How old=何歳」という一対一の対応から生まれた結果であろう。学習目標となっている言語材料 (音声・文・文型・語及び連語・文法事項・文字及び符号) が、どのような場面で、どのように使われるかを、いろいろの例について指導することが必要である。例えば、How old~ の学習指導においては、右の資料 (三省堂版 THE NEW CROWN ENGLISH SERIES Book 1 より) は参考になろう。目標とする言語材料の真の意味・内容・用法を十分に理解させることが、運用力を高めることになり、これが日英語の一对一の対応から脱皮する方法でもあると言えよう。(所員 力武 晃)

— 小学校社会 —

地図帳に親しませるための「地図帳を生かした指導の試行」

1. はじめに

4年生からの地図帳の活用能力は1年生から3年生までの学習の積み上げによってその基盤がつくられ、絵地図の指導もおそろそかにはできない。

指導を誤れば興味・関心を失わせることにもなりかねない。

4年生ではじめて地図帳を手にした子供たちは、ほかの教科書とちがった想像以上の興味と期待をもって地図帳に目を通してしている。

4年生のこの地図帳への入門期を大切に、単なる興味・関心の引き出しに終わることなく、地図帳の見方を十分身につけることによって、地図帳を自ら活用し課題解決にとりくむ能力を培いたいものである。

2. 地図帳活用の実態

「あなたは地図帳を開いて見るのが好きですか」という調査 (S. 58. 10. 各学年 300名) で、男子は半数以上が「好き」としているが、女子は3割~2割と落ちる。

英語学習 (3)

How old is this egg?
It is an hour old.

How old is your bird?
It is ten days old.

How old is this baby?
She is three weeks old.

How old is that house?
It is two months old.

How old is the United States?
It is about two hundred years old.

How old is our school?

about	baby	hour	house	hundred
month	our	United States	week	

しかも、男女共学年が進むにつれて「地図帳ばなれ」の傾向を示している。その原因は、「全体にむずかしい感じ」が比較的多く、次に「地図の見方がわからない」と続き、児童の地図帳指導に「SOS」の信号を発しており、何らかの対策が必要である。

教師側にしても地図帳の使い方を中心とした指導が少なく、地理的課題解決には、教科書やその他の資料で間に合わせていることが多く地図帳ばなれの原因になっていると思われる。

3. 「地図帳を生かした指導」の試行

このような実態からできるだけ入門期における児童の地図帳への興味・関心をうまく引き出しながら効果をあげる方法はないかと工夫を進めてきた。

まず、試行的に地図帳の活用を中心とした特設指導を学年はじめに計画し自主的課題解決にとりくむ授業を考えた。

「地図帳を中心とした地理学習」の希望調査では80%の児童が地図帳の取り扱いを望んでい

る。

そこで、特設単元「地図帳を中心とした指導」を学年初めに2～1時間程度とり、学年に応じた地図帳活用への導入を図った。そのために地理的学習が柱となる4年「いろいろな土地の暮らし」、5年「国土の理解」、6年「わが国と関係の深い国々」の単元の前に1～2時間程度の地図帳を中心とした指導を行う計画を立てた。

4. 実践授業を通して

その計画に沿って、59年10月29日北茂安小学校4年生、11月2日北川副小5年生で「地図帳の使い方」の公開授業をしていただいた。

ア. 4年生の実践授業例……（その一部）



北茂安小 4年生授業

「おかしはどこから佐賀県へ来るのだろう。」最も身近な子どもたちのおかし包みやおかし袋を集め、多くは123種にも及ぶ収集をしている班があり、どこで作られたか（都道府県別）、生産地はどんな所か……地図帳を使って調べてみよう。個人学習、グループ学習を通して生産地の場所を知り、その場所の特色をカードに記入し、県別白地図に貼布していく作業活動を通して、地図帳を見る楽しさやおもしろさを身につけさせる指導の工夫がなされた。

〔おかしの生産地調べ〕

品物名	生産地	調べてわかったこと
ポテトチップス	東京都	・海に面している ・大都市である ・平野が広い ・工場が多い

授業後の児童感想では、地図の学習が楽しく、好きになった（85%）、地図帳の使い方がわかった（93%）と応答している。

継続して、自ら地図帳の活用をさせるため、地図帳を広げて調べた日に「りんごの木の実に赤色をぬりましょう」の表で積極的なとりくみをさせ定着を図ることにした。

イ. 5年生の実践授業例……（その一部）

「北海道旅行の計画を立てよう」

修学旅行で福岡市に行った位置、距離、交通機関、交通路、日程時間、費用などを想起させ次に、国内旅行をしたい地名をあげさせると自然に子どもたちから遠く北海道の希望がでてきた。そこで、地図帳で北海道地方（札幌）の位置、自然環境や産業調べなどを通して、地図帳を見る楽しさやおもしろさを味わわせる。調べ表には、できるだけたくさん調べて記入させ、2人組のペアで作業活動をさせたあと、1グループが発表し、地図帳を生かした学習にとりくんだ。



北川副小 5年生授業

（北海道）調べ表

	調べる こと	地図帳からわかったこと ○初めて △感想	地図帳 ページ
1	人口	○559万人 △佐賀の6倍 △ものすごく多い	P57
2	面積	○83,517km ² △全国一広い △佐賀の34倍	P57
3			

多くは、わずかな時間に記入し、活気に溢れた授業が展開された。

地図学習後の感想にも「地図帳からいろいろなことが調べられることがわかり楽しかった」という声が多くから聞くことができた。

5. あとがき

確かに、4年生で全員地図帳を手にしても、ほとんど活用しないことが多く、そこで、4年5年、6年生の各学年で「地図帳の使い方について」まとめて特設した指導をすることは非常に有効であり、試行過程ではあるが勇気をもってこの試行を確実なものに積み上げていく確証を得たような気がする。

昭和58年・59年の2年間継続研究として、当教育センター小中研究委員会で研究を進め、現在その研究のまとめにさしかかっているところで詳しい内容については今年度末に発行する研究紀要に報告の予定である。

（所員 古賀一守）

昭和59年度 長期研修生紹介

緑に囲まれた静かな教育センターに、今年も28名の現場の先生方を「長期研修生」として迎えることができました。

研修期間は3か月と6か月で、すでに4名が研修を終えられ、現在22名の先生方が研修中で、1月から2名の先生が入所されることになっています。

県内各地の校種、教科、領域を異にした先生方が、教師としての指導力と識見の向上をめざし、各種の専門教養・教職教養の研修と併行して、自分の研究テーマに基づいた研究を、理論と実践の一体化を図りながら深めておられます。近く中間報告会も計画されています。

本年度の「長期研修生」28名の紹介を致します。

昭和59年度 佐賀県教育センター長期研修生

職名	氏名	所属校	教科・領域等	研修内容
教諭	川原田 賢二郎	若楠 小学校	小学校国語	説明文教材の学習を意欲的に取り組ませる指導の工夫
〃	中原 稔	大浦 〃	〃	読みの「確かさ」と読みの「楽しさ」を求めた指導の工夫
〃	太田 保男	大野原 〃	社会	中学年の社会科における地域素材の教材化の工夫
〃	天野 昌明	麓 〃	算数	一人ひとりが生きる算数指導の工夫
〃	横尾 光一郎	本庄 〃	〃	数学的な考えをひきだし定着を図るための操作活動のさせ方
〃	田中 俊典	上峰 〃	理科	上峰小学校周辺における植物の教材化と野外観察コースの設定
〃	永渕 謙	脊振 〃	〃	自然認識を深める教材教具の工夫
〃	渡辺 直也	基里 〃	教育工学	CAIプログラム開発に関する研究～小学校算数を通して～
〃	大坪 康浩	新栄 〃	教育評価	形成的評価を重視した算数指導の試み
〃	吉野 和彦	相知 〃	〃	子どもの一人ひとりに自己学習能力を培う形成的評価の試み
〃	小野原 保子	伊万里中学校	中学校理科	土壌動物の教材化に関する基礎的研究
〃	浜野 孝幸	嬉野 〃	英語	英語の「聞く力」をつける指導法の工夫
〃	田代 勝	城西 〃	教育評価	「わかる授業」を旨とした評価の方法に関する研究
〃	長森 君代	武雄 〃	教育相談	問題行動に対する教育相談の実践的研究
〃	藤井 汎	黒川 〃	〃	問題行動に対する教育相談の実践的研究
〃	松尾 英樹	鹿島西部 〃	〃	問題行動に対する教育相談の実践的研究
〃	梶原 彰夫	太良高等学校	高等学校数	高等学校数学科における「基礎解析」の学習指導について
〃	本山 和明	塩田工業 〃	理科	理科I（地学分野）における観察、実験の工夫と教材化
〃	田中 義政	唐津西 〃	英語	高校英語における読解力を高める指導法の工夫
〃	御厨 康司	佐賀工業 〃	情報処理	工業科目への電算機利用（XYプロッタによる誘導電動機円線図及び特性曲線の作図）
〃	大串 繁樹	有田工業 〃	〃	ディスプレイもしくはXYプロッタを使用したCAI
〃	織持 佳明	鳥栖工業 〃	〃	トランジスタ増幅回路特性の作図
〃	大家 康正	多久工業 〃	〃	LC共振曲線の作図（CAI方式によるXYプロッタを利用した学習）
〃	土師 啓利	鳥栖工業 〃	〃	電算機実習における指導内容の工夫
〃	今泉 一彦	佐賀商業 〃	〃	言語学習（コボル言語、フォートラン言語）
〃	田中 正幸	杵島商業 〃	〃	コンピュータの機能とデータ処理
〃	山崎 一夫	鹿島実業 〃	〃	言語学習（コボル言語、フォートラン言語）
〃	斧本 裕二	唐津商業 〃	〃	フォートラン言語、コボル言語によるプログラミング学習及び「情報処理I」、「情報処理II」の教材作成

私のすすめる「一冊の本」

「お父さんお母さん子供の心が 見えますか？」

(心の教室)

平岡 昭

「私はこれで良いのだ。」「私はこれで良いのか。」言葉では僅か一字違いだが、この積み重ねが人生を変え人格・人柄の差となる。と書かれている。書名は「お父さんお母さん」と呼びかけているが「先生、子供の心が見えますか？」と問われている思いで読んだ。

親も教師も謙虚な思考次元で子供を育てるためにも、この本を読んでみませんか。

(武雄市立朝日小学校)

教頭 吉田 力太)

「教育と医学」

(慶応通信)

—教育と医学の会—

この月刊書は、現在の幼少青年の問題行動や心身の異常等について、いろいろな立場の人々の新しい臨床研究が紹介され、私たちの医学的、心理学的な児童理解と指導にとっても参考になる。

毎月特集編集なので、一つの問題について多様な角度から集中的に勉強ができ、しかも一つの記事が10ページ内外と気軽に読めることもよい。

(小城町立岩松小学校)

教頭 平安寺 扶)

「タバコの教科書」

—知っておきたい喫煙の危険性—

(日本禁煙協会) 白石 尚著

喫煙問題は今や中、高校から小学校へと及びつつある。試みに常習とおぼしき(実態がつかめない)生徒に読んできかせたら「ウッソー」「ホントー」と本をのぞきこんだ。以来その生徒は不安気で落ちつかなかった。医学的・社会学的に豊富なデータや写真等を駆使してわかり易く説得力がある。

親や教師、さらにヘビースモーカーにも必読をすすめたい。

(神埼中学校 教頭 服巻 清之)

「祖母、わたしの明治」

(北上書房)

志賀かう子

明治、大正、昭和の3代にわたって、清くしかもけなげに生き抜いた女医志賀ミエの生きざまを、同女医の孫娘がくわしく書きとめた伝記である。

貧困、離婚そして肉親の死。運命にはどこまでも随順しながらも、たくましく自分を確立させていった様子を澄明な文章でみごとに描いている。また、すべてに心をこめて慈しんだ明治の赤心が、つつましくも豊かに投影されていて、読む者に深い感動を起こさせる。

(佐賀県立佐賀西高等学校 教頭 内川和美)

寄贈図書紹介

ありがとうございました

本年も、個人、各種団体、各学校より、貴重な図書・資料をご恵贈いただきましたので、ご紹介いたします。資料は当教育センターに永く保存し、広く教育関係者の利用に役立たせたいと存じます。(敬称略)

- 少年の生活の根基に培う教育キャンプの話 (稲田 早苗)
- 私の美術教育ノート (松田 末治)
- ふるさと、人と風土 (サガテレビ)
- 佐賀の植物 No.19 (佐賀植物友の会)
- 少年補導白書 (佐賀県警察本部)
- 生物学的方法による水域環境調査 (佐賀県保健環境部)

- 基本的人権と同和問題 (佐賀県総務部人事課)

この他に、県内小・中・高・養護学校より、研究紀要、研究発表大会資料・指導案、記念誌など、また、教育庁各機関よりは公報紙などを寄贈いただきました。

厚くお礼申し上げます (図書資料係)